



国際ロータリー第2600地区
上田六文銭ロータリークラブ
 Rokumonsen Rotary Club

2016-17年度
 国際ロータリー会長
 ジョン F. ジャーム

第2600地区ガバナー 原 拓男

【事務局】

〒386-0025 長野県上田市天神 4-24-1
 上田東急REIホテル 3F
 TEL 0268-25-6000 FAX 0268-25-6002
<http://www6.ueda.ne.jp/~ueda6rc/>

《例会日》毎週火曜日 12:30~13:30
 《例会場》上田東急REIホテル 2F
 《創立》1997年2月18日

●会長 西澤 文登 ●幹事 松澤 一志 ●会報委員長 中澤 信敏 ●副委員長 鹿志村恭彦 ●委員 中沢利樹男/斉藤恵理子

例会日誌

司 会 中澤 信敏君
 開会点鐘 西澤 文登君
 齊 唱 「我らの生業」
 ゲスト

上田腎臓クリニック 院長
 (株)塚田メディカル・リサーチ
 代表取締役 塚田 修様



プログラム
 ・ 職場例会
 (株)塚田メディカル・リサーチ様へ
 職場見学

にお見えになりました。後ほどご挨拶をいただきます。



塚田社長は現役の医師であり、皆様ご存知の医療法人慈修会・上田腎臓クリニック病院の院長でいらっしゃいます。慈修会の理事長、医療器具メーカー(株)塚田メディカル・リサーチ社長、販売会社の(株)ディヴィンターナショナル社長を兼任する、文字通りグループの要でいらっしゃいます。日々お忙しい毎日ですが、私とは高校時代の同期生というよしみということで時間を割いていただきました。

彼は元々、工学部志望だったということです。高校時代の恩師の一言で医学部に進むことになったと聞いております。金沢大学医学部から東京大学医学部の大学院に進み、泌尿器科の医師となりました。医療現場での経験から医療器具を開発し、その特許を製品化し、全国の医療機関に頒布するサイクルをつくりだすという、製品のみならずシステムをも構築した素晴らしい仕事をされているわけです。高校時代の恩師の一言が数知れない人の命を救い、世の中の人に多大の貢献をすることにつながったというわけです。

今はいくつかの製品を手掛けているということですが、元となったアイディアは風

会長挨拶

職場訪問に当たって

西澤文登君

今日は職業奉仕月間のプログラム、職場訪問を行います。訪問先は真田町本原の(株)塚田メディカル・リサーチ様です。例会終了後伺うことになっております。当初、同社社長の塚田 修様には現地でお話いただくことになっておりましたが、東京での用事ができたということで、急遽例会の方

船のしぼむ力で薬液を体内に注入できるのではないかというものだったそうです。ナーコールで苦痛を訴える患者に鎮痛剤投与が必要な場合には医師がその度に駆けつけ注射しなければいけません。しかも急激な注入は患者の命にもかかわることですので、時間をかけなければならない。それを風船の応用で、セットすれば風船がやってくれるのではないかという思い付きだったようです。努力を重ね、ついにシリコン製の器具が開発されました。思いつくのもすごいことですが、それを実際にやってしまう実行力がすばらしいと思います。

製品化に当たってはいくつかのメーカーに当たったということですが、なかなか思うようにはいかない。それでは自分でやってみようということで立ち上げたのが塚田メディカル・リサーチというベンチャー企業だったというわけです。その後、専門の排尿の管の弁の発明、耳鼻咽喉科の治療器具の発明改良など、いくつも製品化され主力製品に成長しているということです。現在は日本国内のみですが、近い将来海外へも展開されるということで、本当にすばらしいことだと思えます。

数年前、ある大手のメーカーから JAXA の宇宙船実験に使う製品の開発打診があったそうです。宇宙船に乗せる実験用小動物の飼育用の給水器ですが、塚田メディカルさんの技術を見込んでの打診でした。何度も試作を重ね、実現しました。電気の力を借りないで、30 日間自動的に給水してくれる給水機ができました。この上田で開発生産されたものが宇宙の旅をしてきたのです。感動する話ですね。医療現場からの声を取り上げて開発生産し、その製品を販売する。まさに三位一体がこのグループの最大の強味だと思います。

ますますのご発展をお祈りいたします。

幹事報告



松澤 一志君

1. RI より
 - ・ the rotarian 10 月号
2. 地区事務所より
 - ・ ロータリー財団ニュース 10 月号
3. さくら国際高等学校より
 - ・ 全国高校軟式野球出場支援金について

1. 桐生赤城 RC 様・・・会報
全会員配布物

1. 当クラブ会報 第 912 号

その他

1. 本日昼食後、(株)塚田メディカル・リサーチ様へ移動をお願いいたします。

出席・ニコニコBOX報告



田中 栄一君

	ベース	欠席	メイク	出席率
本日	22	7	-	68.18%
前々回	21	5	2	76.19%

西澤文登君 本日は企業訪問です。塚田院長、お世話になります。

杉山 裕君 塚田先生、今日はよろしくお願ひします。

宮原宏一君 塚田院長様職場例会でお世話になります。

中澤信敏君 塚田様本日はよろしくお願ひいたします。

田中栄一君 職場例会です。少ない出席で

すが、よろしくお願ひします。

西澤尚夫君 小学校の同級会に行って来ま
した。42 人中 22 人集まりま
した。

笠原 一洋君	鹿志村恭彦君
松澤 一志君	宮澤 広一君
中沢利樹男君	齊藤恵理子君



上田腎臓クリニック 院長
(株)塚田メディカル・リサーチ
代表取締役 塚田 修様よりスピーチを
いただきました。

その後、上田市真田町にある施設へ移動し、
見学を行いました。

プログラム

職場例会

(株)塚田メディカル・リサーチ様職場見学

～(株)塚田メディカル・リサーチ～

医療法人 慈修会 上田腎臓クリニック
院長 塚田 修様が代表取締役を務める
医療機器製造・開発・販売を行う企業。
世界で初めて手術後の疼痛管理としてシリ
コンバルーンを利用した薬液持続注入器
の開発を始め、現在ではそのバルーンカテ
ーテルを応用した泌尿器科用間欠式バル
ーンカテーテル、副鼻腔炎治療用カテー
テル医療外でも国際宇宙ステーションで小動物
を飼育するための電力が不要な給水バル
ーンを開発するなど、事業が拡大されている。



工場長 甲田 勇様よりご説明いただきま
した。

2003 年日本麻酔学会より社会賞受賞

2009 年中小企業庁より元気なモノ作り中
小企業 300 社に選定

2013 年長野県より間欠式バルーンカテ
ーテルがものづくり大賞 NAGANO エクセ
レンスに認定

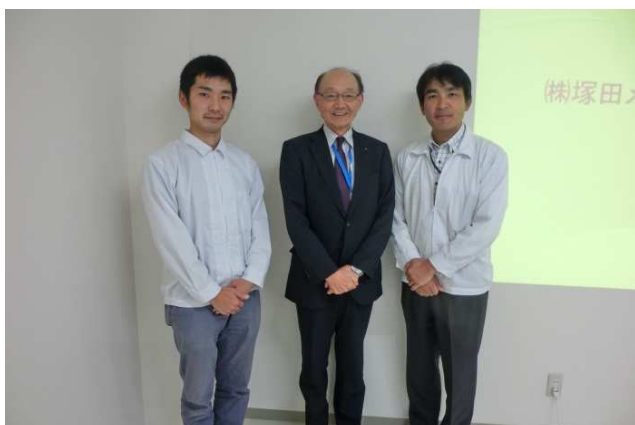


～全ては患者様のために～

- 患者さんのQOL向上を目指したものづくりを行います。
- 患者さんの快適な生活を提供します。

～三位一体のものづくり～

- 医療現場の生の声を製品の開発へ繋げる



例会プログラム変更のお知らせ

会 長 西澤 文登
プログラム委員長 中沢利樹男

11月15日(火)の例会プログラム「会員卓話」を「20周年記念事業委員会の委員会ごとの打ち合わせ会議」に変更いたします。

周年記念式典は全会員の皆様にご協力いただきますことをふまえ、お忙しいところとは存じますが、ご都合の上、ご出席をお願い申し上げます。